|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 件名 | **令和４年度　第3回　中部本部　独立技術士交流委員会　議事（案）** | | |
| 1. 日時 | 令和4年8月25日（火）　12:30～13:30 | | |
| 1. 場所 | 各自自宅等の完全Web開催 | 議事録の担当者 | 米澤　雅之 |
| 1. 出席者   （敬称略）□出席  ◇Web出席　■欠席 | ◇米澤雅之（委員長）、◇田島暎久、■麻田祐一、■石川英司、■石川君雄、■伊藤文夫、  ◇犬丸晉、◇太田隆之、■加藤理、■可児正勝、■五味道隆、■長谷川正、◇原浩之、◇前田武光、◇松原守、■三宅立郎、◇村橋光臣、8名（出席） | | |
| 1. 添付資料 | * 1. 令和4年度独立技術士交流委員会第2回議事録（添付1）   2. 令和4年度独立技術士交流委員会セミナー計画・実績（添付2） | | |
| 1. 議事内容 | 1.中部本部幹事会は前回7/5から時間が経っていないため幹事会の報告は無し。  2.その他  (1)全国大会準備状況  　6/25（土）第1回実行委員会開催、第２回8/27(土)開催予定  　協賛広告を掲載して頂ける会社を紹介頂きたい。  (2)第48回全国大会（奈良・関西）10/28(金)～10/31(日)奈良・関西の参加申込が8/9から始まった  3.セミナーの計画（添付2）  1)12/8は愛知中小企業家同友会との合同開催の予定  2）2/23の会員講演は米澤で仮に入れておきますのでいつでも交代出来る様にしておきます。  　3)来賓講演者の謝礼を￥20,000としたが、セミナー参加者が少ないため赤字開催となっています。  4）そろそろ令和5年度の計画をしたいので提案頂きたい。  4.日韓技術士交流委員会  1）理事会（7/13）の報告  須賀委員長より、配布資料２「韓国技術士会との新たな交流の必要性検討と、覚書等の検討への移行の是非について」が７月理事会に報告された旨の説明があった。   * この報告内容について、理事会の承認を得られた。 * 当初、記載していた中国・東アジアに関する箇所は削除し、差しさわりのない表現に修正した。 * 新しい協定の案は今後、国際委員会と調整しながら詰めていく。   以上について、委員からの意見は特になし。   1. 今後の日韓技術士会議の進め方について検討会議」のような日韓共同会議体を設置して、来年5月の理事会承認を目標に詰めていく提案があった。   　委員から次のような質問と意見があった。  　・来年、大分で開催する案は韓国側に伝えてあるのか？（田島）　➜　それについては何も  　　伝えていない。(委員長)   * 来年の大会は東京か、どこかで縮小して開催するにしても、それなりに内容を決めねばならない。東京で開催する場合の運営主体は当委員会か。このような日本側の方向転換を韓国側に早急に連絡して合意を得る必要がある。そのために、１～２年延期してもよいのではないか。（田吹） * 日本では縮小して開催し、韓国では従来通り派手に行う方法もあるのではないか。（片桐）　　➜　今後、日韓双方で協議していくことになる。（委員長） * 統括本部の役員が来年交代するので、その後の方針に合わせて考え直してもよいのではないか。（青葉）   3） 第51回会議（麗水）について  配布資料５に沿って、ヨスへの交通手段など韓国側との調整結果の現況について事務  局から説明があった。金委員の情報によれば、ビザが必要で、混雑していてビザ取得に2  ケ月以上かかる恐れがあるため、参加者は来月にもVISA申請した方がよい。コロナ対応  ついては、情報収集した間中委員から説明があった。  第1分科会、第2分科会、第4分科会の各座長名で個別に発表者募集の同報メールを  配信したが、現在、第２分科会に３名、第４分科会に３名が応募。分科会の発表者募集については、あらためて現地参加方法の状況とともに事務局から同報メールを配信する。  委員から次のような意見があった。  　・現状では、交通手段が限られている上に、帰国時に72時間以内のＰＣＲ検査が必要だ  が、韓国では検査を受けられる場所が少ないために、ＰＣＲ検査のためだけに韓国で１泊  しなければならなくなる。  ・このような状況下での会場参加では所属企業の許可が得られない。仙台大会のようなオンライン開催が望ましい。  　・この状況では、日本側からの参加者はゼロになる。  ・分科会は個別に開催されるのか？（小田切）➜ 合同委員会では、会場で対面方式の場  合は個別に開催し、オンラインの場合は仙台大会のように1カ所で開催となっていた。  （委員長）  　・配布資料６のシンガポール技術士会IESからのメールについて、日本側からの返事は、  「オブザーザー参加を歓迎する」、「コロナ禍で対面会議は難しいと考えていることを韓国  技術士会に伝え、韓国技術士会の判断を仰ぐことになります」という２点のみを記した簡  単なものでよい。（橋本）  4）日韓技術士会議50周年誌について  　配布資料の別紙２に沿って、事務局から説明。  　委員からの意見は特になし。  5）今後の予定について  　８月の国際委員会で、今後の進め方について更に議論していく。  須賀委員長より、配布資料３に沿って、先週の7月21日開催された「日韓技術士会議の今後の進め方について」の会議内容に関して説明があった。会議出席者は、田沼副会長 、長崎企画委員長、須賀日韓委員長 、佐々木国際委員長。要点は下記の通り。   * 国際委員会および統括本部との情報共有が不十分であったために、来年の第52回大会の九州本部開催は統括本部を介して正式に決定されていない。 * これから正式決定しても十分な時間的余裕がないため九州本部は開催できない。このため来年の九州開催は白紙還元となった。従って、来年は東京か他所で開催するか、あるいは１年延期も考えられる。1年延期であれば九州本部で開催できる可能性あり。   今から新協定を日韓双方で合意策定してヨスで調印するのは難しい。「日韓新協定案  5.海外活動支援委員  1）国際委員会からのフィードバック ・日韓技術士交流委員会は、第５１回（本年度）は実施する。第５２回はどうするか未定。 ・国際委員会からの要望：UTC との MOU 申請書では情報不足のため、補足説明文を出してほしい。 UTC との MOU 交換の「必要論」を書いてほしい、目的は何か？ 国際委員会では解らない。 ・日韓技術士交流委員会の存在意義も問われているので、その資料を参考にしてほしい。  2) 2021 年度研修会・講習会  ・６月研修会の結果（市森小委員長）： ―アンケートの集計結果について報告があった。全般的に良い評価であった。 ―JICA 報告につないだ実務例の報告が良い評価につながった。経験談が好まれるようである。 ―（出された意見例）：海外のビジネスチャンスをつかみたい、そのために講演会に参加している。 ―（出された意見例）：海外ビジネスと経済安全保障との関係が気になる、教えてほしい。  ・８月研修会（坂本委員、森山委員）： ―開催日時：８月３０日（火） 13:30～16:50、ハイブリッド講演会（機械振興会館6-67 + Teams） ―講演１： 森山委員、「ベトナムの農業事情」 講演2： 辻井委員、「ベトナムの道路事情（仮）」 → 後日連絡あり。 講演３： Le Long 様、「大雨によるベトナムの洪水状況と今後の提案について」 ―開会の挨拶：佐々木委員長、 閉会の挨拶：坪井小委員長 ―当日のオンラインの協力、及びセットアップ：佐々木委員長、日原委員、セットアップは 11 時から 行う。 ―当日の受付：市森小委員長、野辺委員 ―以上の内容をホームページに掲載した。 ―当初予定した JETRO は、人事異動のため８月は調整つかないとのことで、２月以降を想定。  ・１０月研修会（坪井小委員長、佛原委員） ―開催候補日： 第１候補日 １０／１３（木）、 その他の候補日 １０／６（木）、１０／１１（火） ―講演１、中電技術コンサルタント（株） 速水 徹 技術士（建設部門） 2 「初めての海外業務体験 カンボジアの水力発電 JICA プロジェクト（仮） → JICA の例 とするのか？ → 演題について講師に確認する。 ―講演２、 坪井小委員長、「初めての海外業務とその後 韓国における技術指導（仮）」 ―開会の挨拶：佐々木委員長、 閉会の挨拶： 細谷副委員長、 総合司会：市森小委員長  3）海外対応小委員会の活動 ・ベトナム（坂本委員、森山委員）: ベトナム UTC との MOU 締結：今回報告はなかったが、本年8 月ごろ MOU に署名の予定である。 ・台湾（酒井委員、坪井小委員長）: ―台北駐日経済文化代表処を訪問した (6/20)。柏課長（現在 台北）の日本事務所着任に合わせ て、来年２月ごろ再度訪問する。本件日程調整を行う。 ―台湾 三建産情社からのセミナー開催の依頼について： 今後の対応の流れ ① 国際委員会へ連絡 （国際委員会の許可は不要であるが、念のため連絡だけはしておく）。 ② データベースを使用し、DB 登録会員へ紹介メールを出す（佐々木委員長）。 ③ 講師は自分の責任で、外為法（リスト規制、キャッチオール規制）のチェックをする。 ―TAIROS（台湾ロボット・スマート自動化展）：機械部会から 1 名決定。 ・韓国（坪井小委員長、森山委員）： ―覚書（ＭＯＵ）は自動更新しない方針になったため、韓日産業技術協力財団（韓日財団）と新たに ＭＯＵを締結することになった。 ―韓日財団とのオンライン会議（ＭＯＵ締結に向けて）を実施の調整中。  4）ベトナム、台湾、韓国以外の国に対する活動 ・インドネシアについて（市森小委員長）： ＪＲＴＲＯ、インドネシア日本大使館を訪問した。オンラインでの講演は可能であるとの回答をいただ いた。 → セミナーをやっていただきましょう（佐々木委員長）。  5）海外活動支援委員会の活動に関する出版について（森山委員）： ・＜提案＞ 月刊誌ＰＥの海外特集、ＳＤＧｓ特集のまとめと技術英語、国別知識を編集企画する。 ―本年度の期中予算申請で計画する、不承認の場合は、次年度の予算に計上する。  6.独立技術士会交流委員会  　　以下を説明した   1. 2022年度の行事予定。既にハイブリッドで2回開催した。 2. R4（2022）年5月21日に新合格者歓迎説明会で第三部の独立技術士会交流委員会のブレークアウトルームには参加者がゼロでした。昨年（R3（2021）年）5月29日には初めてWebで開催された新合格者歓迎説明会では独立技術士会交流委員会のブレークアウトルームには何れも二次合格者の金属2名、機械2名、化学1名が参加して頂いたのと比較すると寂しい結果となってしまった。   9.次回　10月25日（火）曜日が異なるので注意して下さい。　司会：米澤　メモ作成：米澤  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上 | | |

添付2**令和４年度「独立技術士会交流委員会セミナー」**令和４年８月２５日現在

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開催  年月日 | 講演題名 | | 講師所属先  （役職まで記入のこと） | 講 師 名 | | 参加者（人） | 場所  その他  特記事項 | | | 備考 | |
| 会員  (正会員及び準会員) | 非会員 |  | |
| 令和4年  4月28日(木) | 「ポストコロナ経済V字回復を可能にする「新しい資本主義」とは～「カネの流れ10倍速」と知識の型の転換」　　　　　　　　講演要旨；コロ禍で分断されたサプライチエーンの下、「支払いはより遅く」から「より早く」へという真逆の価値観への転換を促す「資金循環速度（SCCC）」指標と、「デジタル化・DX化」との合わせ技で、デフレ脱出と「新しい資本主義」へとつなぐ中部地区からの提言 | | 名城大学名誉教授 | 河田　信 | | 10 | 1 | 中部本部会議室にて対面式とウェブ中継のハイブリッド方式 | | 外部講師紹介　　犬丸委員 | |
| 「日本発空襲で笑ってしまった男の物語」  講演要旨； 盤鬼：西条卓夫を範とした音楽鑑賞法 | | 伊藤技術支援パートナー | 伊藤文夫 | |  | |  | |
| 令和4年  7月5日(火) | ｢健康食品等への理解を通じた健康管理の考え方｣講演要旨；藤田保健衛生大学にて３０年以上にわたり臨床検査教育と研究に携わる傍ら、食品の有効性、安全性に関する幅広い調査研究活動を行ってきた。２００１年に健康食品を含む食に関する正しい情報を発信するため「（一社）日本食品安全協会」を設立。食品の本質について課題を提起し、共に考える。 | | 鈴鹿医療科学大学　副学長 | 長村　洋一 | | 12 | 1 | 中部本部会議室にて対面式とウェブ中継のハイブリッド方式 | | 外部講師紹介　　村橋委員 | |
| 「ボンドグラフによる三つの玩具の性能検討」  「ガリガリとんぼの自励回転に関する検討」  「ボンドグラフによるウィンドカーの最高速度の検討」  「ボンドグラフによるソーラーカーの走行性能の検討」 | | 松原技術士事務所 | 松原守技術士（機械部門） | |  | |
| 令和4年  8月25日  (木) | （仮題）  堀川の美化についての取り組み  名古屋市内を流れる堀川は非常に汚染され憩いの川とは言えない。  子の美化に、長年堀川1000人隊の事務局長として、取り組んでこられた。最近では、ボラなどの魚も見ることができるまでになった。その取り組みについて解説していただく | | 堀川1000人調査隊実行委員会　事務局長 | 服部宏（はっとりひろし） | | 8 | 1 | 中部本部会議室にて対面式とウェブ中継 | | 外部講師紹介　　犬丸委員 | |
| 「古代の鉄と神々の跡」  要旨：古代の文化は、出土遺物や文献記録によって知り得るばかりではない。殊に古代人の精神生活を知ることができるものとして、神話や伝説、さらにその基底に祭祀(神々の祭り)がある。  これらを通して日本文化の形成過程を明らかになった。そのなかで鉄が極めて重要な役割を果たしていたという驚くべき事実が判明した。 | | ベルナー技術士事務所 | 太田隆之 | |  | |
| 令和4年　 10月25日  (火) | （株）Jコスト研究所のHPのコラムに　 Ｊコスト改革の考え方 | | （株）Ｊコスト研究所 | 田中正知様 |  | |  |  | | | 外部講師米澤紹介 |
| 摩擦の話 | | 原国際技術士事務所 | 原　浩之様 |  |
| 令和4年  12月8日  (木) | 愛知中小企業家同友会との合同の予定 | | | | | | | | | | |
| 航空業界について |  | 田島技術士事務所 | 田島暎久様 |  | |  | |  |  | |
| 令和5年  2月22日  (水) | 鉄道150年記念年 |  | 津島軽便堂写真館 | 田中義人 |  | |  | |  | 外部講師伊藤委員紹介 | |
| 船舶での爆発・火災事故について |  | 米澤技術士・労働安全コンサルタント事務 | 米澤雅之 |  | |  |  | | 仮に入れておきます。30年以上前の大事故の話代わりの方がいらっしゃったらいつでも交代します。 | |
| 年間合計開催数　６　回 | | | | | | 合計30　名 | 合計3名 |  | |  | |